

No. 1233

五つ子京都へ

東京練馬区の山下頼充さん夫妻の五つ子が去る8月24日、新幹線で京都へはじめての旅行に出発しました。今度の旅行は五人の名付け親で今年百一歳になる京都・清水寺の大西良慶貫主に五人の成長ぶりを報告するのが目的。何もかも初めてづくしの五人は新幹線の中で絵本を拡げたりしてごきげんでした。。清水寺に着いた山下さん一家は寺側の案内でまず本堂に向かい成長を祈願しました。つづいて“清水の舞台”から京の都を見物。境内にある成就院の接見の間。五人は大西良慶貫主と初めて対面しました。五人を目の前にして「よう来た。ようきた」。とこの日ばかりは世紀の風雪を刻んだ顔をほころばせていました。この日のために詠んだという歌の色紙が良慶貫主から山下さん夫妻に送られました。山下さん一家にとってすばらしい夏休みでした。

高原に燃える

— 長野・菅平 —

アマチュアスポーツの花形ラグビー・男たちのそう烈な戦いがファンを魅了する。標高1300mの信州菅平高原、ここはラグビーの大学、社会人チームなど大勢の若者が集まり文字通りラグビータウンだ。今年の2月に起きた部員の不祥事件で自粛中だった早稲田大学もOB、現役総力結集の旗をかかげ18日間の異例の長期合宿を続けている。練習は基礎、実戦、仕上げの綿密なスケジュールで厳しく行われる。泥と汗にまみれた選手、1人1人の顔には伝統をになう気迫があふれていた。新人にとって夏の合宿はひとつの正念場である、力をつけて上級生のポジションを脅すもの。逆に仲間との競争から脱落していくものなどはっきりと色分けされるからである。早大には2人の有望な新人がいたひとりにはFBの奥脇だ。キャプテン代行の松本のポジションの後ガマとして一番手につけている。もうひとりには中川君だ。身長187cmの恵れた体は一線級。この夏合宿いかんではレギュラーポジションを不動のものにしそうだ。10月からシーズン開始、今大勢の若者が高原に青春の炎をたぎらせている。